

# 2022年6月4日日中国交回復50周年記念大会講演会

主催 千葉県日中友好協会 共催 千葉市日中友好協会

於：千葉市民会館

千葉県日中友好協会は、日中国交回復50周年記念大会を開催し講演として、佐倉市在住の登山家松田宏也氏から、1982年中国四川省の高山「ミニヤコンカ」の登頂を目指すも遭難し、現地の少数民族イ族に助けられて、奇跡の生還を果たした経験について、お話を頂きました。この遭難で、松田さんは凍傷で手の指第2関節から先10本と両足のひざ下を失いました。

2千数百メートル地点にあったベースキャンプにたどり着いたときは、瀕死の状態でした。そこにたまたま通りかかった、「冬虫夏草」取りの4人のイ族の一家に発見され、100人の村人が動員され、ふもとの病院まで100キロの崖路をタンカで交代に運んでくれたということです。その後四川省の大学病院に転院し、20近くの病名のつく重病でしたが、奇跡的に回復したということでした。当時の中国での最高の治療がされたということもさることながら、何よりも、本人の強靱な精神力に驚嘆します。

医療費は、全額中国側が負担をしてくれました。救助時に大量の輸血が必要でしたが、救助してくれた少数民族イ族は他人に輸血することを禁じていましたが、特別扱いで6,000ccの輸血をしてくれた。だから日本人の血から中国人の血になったと（笑）。四川省の大学病院での高度医療の治療費を全額中国政府の負担で受け、手厚い看護で生還し帰国できたということでした。

## <記念講演講師松田宏也氏プロフィール>

1955年大分県佐伯市に生まれる1978年同志社大学経済学部卒業在学中より登山を始め、アラスカ・ヘイズ峰(4,150m)遠征

1982年中国四川省ミニヤコンカ峰(7,556m)遠征し遭難1983年500日間の闘病生活の後、社会復帰84年:両足義足にて登山活動を再開1986年冬の富士山(3,776m)単独登頂88年:冬の北海道知床・斜里岳(1,545m)登頂春夏秋冬、日本各地の山々を登る一方、スキーも始める  
1995年8~9月チベット・シシヤパンマ峰(希夏邦馬峰8,027m)遠征7,430mのファイナルキャンプまで達す

2020年日本山岳会創立120周年記念事業のグレートヒマラヤトラバースの

1stステージ(東ネパールカンチェンジュンガ山麓)に参加

「追記」

1982年中国四川省ミニヤコンカ峰(7,556m)の頂上目前にして天候が急変し行方不明となる。19日後、地元農民に発見され九死に一生を得るが、凍傷により両手指と両足を膝下15cmより切断。1種1級の身体障害者となったが、社会復帰後、会社業務のかたわら義足で登山を再開

1995年に念願のヒマラヤ8,000m峰遠征を果たす。

2020年日本山岳会グレートヒマラヤトラバースの1stステージ（約300km）を踏査する。

「著書」

「ミニヤコンカ奇跡の生還」「足よ手よ僕はまた登る」山と溪谷社刊

山岳雑誌に多数のエッセイ寄稿

「所属」

公益社団法人日本山岳会理事&千葉支部長

日中文化交流協会会員、同志社クローバー山岳会会員



2022年6月4日講演会



2002 私の発見現場に建つ松田小道記念碑にて